

## 令和4年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	2	学校名	国際高等学校
----	---	-----	--------

### 1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	第29回秋風のコンサート
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	社会参加活動の一環として学校開放して、生徒の活動の一端を紹介することにより、地域の方々の学校に対する理解を深める。また、学校行事として全校体制でイベント準備を行うことで、地域社会との関わりや、地域社会に支えられていることに気付き、地域のために貢献できるような人材を育成すること。
連携・協働相手	マミーズ保育園、奈良市立登美ヶ丘北中学校吹奏楽部
地域と共有している目標・課題等	コロナ禍で活動が制限される中、つながりを大事にして、お互いの発表の場を構築することで、地域からの発信力をつけていくこと。
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
<p>登美ヶ丘高校が地域と築きあげてきたイベントを基礎にして、国際高校がその内容を継承して行った。このイベントのPDCAに関わること（演奏会の準備、出演する団体との交渉、プログラムの複数言語化、宣伝ビラの作成、会場準備、当日のおもてなしも含めて演奏会の内容にも国際高校らしい活動、片付けなど）を全校生徒が主体的に活動することができるよう、本校生徒会がすべての生徒に呼びかけて、地域イベントを創り上げたことにより、生徒は成就感をえることができた。また、地域イベントの運営により、生徒会が地域で困っている人たちへの支援を行うために、義援金集めを企画した。</p>	

### 2. 事業の成果と課題

<p>地域の教育機関を生徒の学習に結び付けることで、四半世紀にわたり地域に根ざした行事として定着してきた。今年は県教育委員会のガイドラインに則り、現役生と卒業生及びゲスト出演者の家族等のみの入場としたが、200名の来場を得た。</p> <p>本校生徒が、地域の構成員の一員として、自らの学舎で義援金活動を行うことで、自身の活動による発信力を感じることができたことが一番の成果であった。参加した生徒は、「新型コロナウイルス感染症の影響により制限があったが、地域の方、並びに本校の保護者の方に本校の活動や地域の中における学校の活動や様子を見ていただけたことが何より嬉しかった」「普段の感謝の気持ちを伝えられた発表になった」と回答した。今後さらに、地域にある大学や一般団体と連携を図っていくことで、さらに地域との連携、協働を深めていきたい。</p>
---

